

## Broaden your horizons ⑩4 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

病院長の先生からメールが届きました。「当病院の門前薬局に24時間体制の打診を2度したのですが、無視されたので処方せん約8割を院内処方に戻しました」。「先生、本当に申しわけございません!」と思わず私が平謝り……。先生のメールは、「私たちの業務は増えましたが、患者さんからの評判も上々です。調剤薬局は必要なの?」と続きます。「返す言葉がございません」。

先日、東京女子医科大学病院がハイリスク薬を院内処方に戻したという記事が躍りました。「ハイリスク薬については保険薬局以上に質の高いファーマシューティカルケアを実践し、薬剤師外来の展開につなげたい」と。さらに「お薬手帳を断ると、薬局の支払いが20円安くなる!」というつぶやき(ツイッター)が拡散しました。「これは本当ですか?」と私に問い合わせがありました。薬剤師の立場では、「自分の薬を管理するために20円をケチらないで!」と思う一方、「このような話が拡散するということは患者さんにメリットを感じてもらえない薬剤師の指導に問題がある」とも思いました。

今年4月の診療報酬改定で調剤薬局に経営的な逆風が吹き、さらに薬剤師が招いた逆風までもが吹き始めています。調剤薬局に吹く逆風はまだ序盤でしょう。ですから、薬剤師自らが招いた逆風は自らの手で防がなければなりません。

ある社長の片腕としてすごがんばっているなと思える人の給与を、社長が「めっちゃがんばってくれたから500万!」と言ったとき、彼の働きを見ていた私は、「え? 500万?」と驚いたことがあります。それを考えると、本当に薬剤師は恵まれていると思います。残念なことですが、薬剤師で彼ほどがんばっている人を私は見たことがありません。しかし、彼よりも給与をもらっている薬剤師をたくさん知っています。けれど、社会はそんなに甘くありません。逆風に飛ばされないため、薬剤師はこの恵まれた環境に甘んじることなく、自分の技能・知識を増やしていかなければならないと心底思います。

**お知らせ** 7月6日13時50分~メディセレスクール大阪で「次世代の薬剤師を創る会」を開催します。今回は薬剤師であり臨床心理士でもある京都学園大学人間文化学部の伊原千晶准教授にご講演いただきます。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子